

2024年 8月 18日 《平和祈念礼拝》

主 日 礼 拝

①8時半 ②10時半 ③夜7時

司 会

②白川 達男兄

奏 楽

祈 禱

②石井 秀人兄

賛 美

教会福音讃美歌359番

「私の望みは主イエスだけにある」

～ワンボイス～

平和の祈り

聖書朗読

使徒行伝14章19～23節

特別賛美

韓国永楽教会聖歌隊

メッセージ

「主を信じ待ち望む信仰」

石井 潤 牧師

献 金

聖歌576番「聖霊きたれり」

賛 美

～静まって知れ(Still)～

祝 禱

お知らせ

〔司会者〕

賛 美

～叫べ、全地よ～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします! ☆
《今週のお知らせ》

☆本日も礼拝の恵みを感謝致します! 世界の平和のために祈りましょう!

★今週の祈り会: ①明朝6時。②木曜祈禱会: 夜7時半～。③土曜夜8時。

☆木曜午前10時半～、WOGA 集会(ボーマン・ルリ子師)が行われます。

★来週も日曜礼拝を大切に!(司会: 石井兄/祈禱: 松岡姉)。午後は聖歌隊。

☆☆一年に一回聖書を完読できる! Bible Reading Plan [8/18-/25] ☆

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
聖書箇所	詩篇 119 :89-176	120 -133	134 -141	142 -150	使徒 1-2	3-5	6-7	8-9
チェック	○	○○○○○ ○○○	○○○○○ ○○○	○○○ ○	○○	○○○	○○	○○

「主を信じ待ち望む信仰」

～平和の主が共におられる～

「二人はこの町で福音を告げ知らせ、多くの人を弟子にした後、リストラ、イコニオン、アンティオキアへと引き返しながらか、弟子たちをカづけ、『私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なくてはならない』と言って、信仰に踏みとどまるように励ました。」

使徒行伝14章21・22節 [協会訳]

パウロたちの行く手には、常に困難が待ち受けていました。そのほとんどが、同胞であるユダヤ人たちからの迫害です。自分もクリスチャンたちを大迫害していましたから、彼らのことを他人事のようには考えられなかつただろうと思います。この気持ちは、元々主の弟子で、パウロたちから迫害を受けてきたペテロやヤコブたち初代教会のリーダーにはない気持ちだつたと思います。だからこそ、どんなときにも自分を苦しめる者たちに対して、敵対心を持つことなく、受け止め続けることができたのだと思います。

先日の15日は79回目の終戦記念日でした。来年で80年ということになります。それだけの長い年月が経過しましたが、あの戦争の悲惨さ、苦しさ、辛さは決して消えることはないでしょう。そして、唯一の被爆国としての私たち日本人の立場は、平和を語るべき使命を有していると言つていいと思います。しかし、私たちも同様に加害者であることを忘れてはいけません。しっかりと、襟を正して、自分たちの進むべき道を選ばなければいけないと思います。

世界は分断による大戦争への準備が整いつつあります。先日閉幕したパリオリンピックではその世界の分断を感じずにはいられない場面が何回もありました。平和の祭典であるオリンピックが、世界の国々の威信を誇示する場になってしまう部分も感じました。そもそも国家対抗のスポーツではなく、個人の技術向上の場とした方がよいのではないかと感じました。平和とは何なのか？どうすれば純粋な平和が造り上げられるのか？と考えさせられます。

イエス様は「敵を愛しなさい」と何度もお語りになりました。またパウロも「善を持って悪に勝ちなさい」と語りました。また、私たちが立ち向かうべきは、悪の霊たちに対する戦い、罪に対する戦い、人間の欲に対する戦い、何よりも自分自身との戦いであるとも語りました。

平和とは何なのか？お互いの人間関係が土台となって世界は成り立っています。では、私たち自身お互いにお互いを尊重し、愛し合うためにはどうしたらよいのか？それは、自分自身が神によって赦され、神によって命を懸けて愛されている存在であることを常に感謝して生きるということではないでしょうか？世界平和の最も中心となるものは、私たちの内側の状態です。私たち自身、自分自身の内側を自分でどうにか出来るものではありません。私たちの罪深い、相手を苦しめ、自分自身をも苦しめる要素を、主イエス様の十字架によって神様に赦されたからこそ、自分を赦し、他者を赦すことができるのです。誰一人完全な存在はいません。しかし、それを虚無的に受け止めることなく、感謝を持って不完全な自分自身を受け入れていく時に、次の世界が見えてくると信じます。